

「今日の診断指針」第4版

住友病院院長・京都大学名誉教授 亀山 正邦
 東急病院顧問 亀田 治男 編集
 自治医科大学学長 高久 史磨
 慶應義塾大学名誉教授・聖路加国際病院臨床医学教育顧問 阿部 令彦

多賀須消化器科・内科クリニック

多賀須 幸 男

編集責任者をすべて入れ替え、若い医師を執筆者に選び、項目も再検討して5年ぶりに全面改訂された「今日の診断指針」第4版の書評を依頼された。広辞苑にはほぼ匹敵するボリュームを持つこの大著を手にとって、その姉妹編である「今日の治療指針」の編集に携わる一人として、充実した内容に大げさではなく驚嘆した。膨大な内容を紹介するのは容易でないが、診療しながらいろいろの頁を開いて得た印象を率直に書いてみる。

全科の病気を対象とするこの種の書物は内科系疾患に偏りがちであるが、本書は前からそのほかの領域に多くの紙数を割いてきた。第4版ではそれがいっそう進んで、整形外科、皮膚科、眼科、耳鼻咽喉科、産婦人科などの疾患について、それぞれの専門学会の診断基準や分類まで踏み込んで記載している。様々な病気の相談を受け、あらゆる科から診療情報書を頂く開業医にとって誠にありがたい。総合病院の研修医や医師には学際的知識が更に必要なはず

で、どの診療の場でも一度備えると思放せなくなるに違いない。

本書にはかねてから巧みな見出しが付けられていて、門外漢にも肝腎なところがわかりやすかった。第4版ではそれがますます洗練されている。おそらく編集責任者が最も意を尽くした部分であり、診療に実際従事している第一線の若い医師がそれに応えてうまく執筆している。“なかなか診断できないとき試みること”とか、“更に知っておくと役立つこと”などの記述は出色である。

第4版にはシェーマやカラー写真のほか、CTやMRIなどの最新画像が非常に多数掲載されている。なじみがなかった他科の画像と解説に、筆者は特に新鮮な印象を受けた。

遺伝子診断や分子医学領域の最新情報の収載を心がけたと序文にあるが、その結果、まれで特殊な病気や病態についての記述がとりわけ充実した。項目数はほとんど変わっていないが“鑑別診断すべき疾患と鑑別のポイント”などの説明が広げられて、ここにもその最新情報が詰まっ

ている。研修医や若いドクターには特に歓迎されるに違いない。編集部は苦慮したであろうが、こまめに参照頁を記入する行き届いた配慮が本書の価値を高めている。

検査の基準値一覧の部は42頁から130余頁に大幅に増えて、その充実ぶりには目を見張らざるを得ない。これほど多数の項目の基準値を蒐集された担当者の苦勞がしのばれる労作である。

膨大な最新情報を詰め込んだ2,000余頁の本書を手に入れば、消費税抜きで23,000円の定価が決して高価でないとわかろう。机上の医学図書館として、すべての診療所、医局、病棟、研究室にぜひ備えるようにお薦めする。

- デスク版 B5 頁2000 図282 写真840 カラー写真425 原色図5 表721 1997 定価(本体23,500円+税) 7700
- ポケット判 B6 定価(本体18,000円+税) 4400

医学書院 刊(☎ 03-3817-5657)